

事例番号:320170

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第二部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 35 週 膣分泌物培養検査で B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 陰性

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 4 日

6:45 前期破水のため入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 4 日

7:36 骨盤位、前期破水の診断で帝王切開により児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 4 日

(2) 出生時体重:2700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析: pH 7.44、BE 0.8mmol/L

(4) Apgar スコア: 生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生: 実施なし

(6) 診断等:

生後 7 日 退院

生後 20 日 発熱、多呼吸

髄液の髄膜炎菌迅速同定検査で GBS を検出

髄液検査で細胞数 164/3 μ L、蛋白質量 293 mg/dL

血液検査で CRP 2.9mg/dL

(7) 頭部画像所見:

生後 49 日 頭部 MRI で脳室拡大を認め、また嚢胞変性を広範囲に認め、細菌性髄膜炎の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS 感染症により、細菌性髄膜炎を発症したことであると考える。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 36 週 3 日に、骨盤位のため妊娠 38 週 3 日で帝王切開の予定としたことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 37 週 4 日の入院時の対応(超音波断層法を実施し、骨盤位、前期破水の診断で帝王切開を決定して、文書を用いて説明と同意を得たこと、セフェム系抗菌薬を静脈内投与したこと)は一般的である。

(2) 手術室移動まで分娩監視装置を連続で装着し、胎児心拍を経過観察したことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

(2) 生後 20 日に症状が出現し受診した際の近医の対応(血液検査)、および高次医療機関へ紹介したことはいずれも一般的である。

(3) 高次医療機関での管理(GBS と診断、その後の対応)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

遅発型 GBS 感染症に対する疫学的調査、予防・診断・治療に対する知見の集積が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。